

酒田市の現状

- ・沿岸部と山間部、飛鳥
- ・庄内平野東縁断層帯

自ら判断し、いのちを大切にする児童生徒の育成
～大震災の歴史に学び、生き抜く力を育む～

当面の課題

- ・防災マニュアル作成ハンドブックを活用して各校の防災マニュアルを作成する。
- ・防災教育に関する教員の資質能力の向上を図る。
- ・避難所開設・運営について、学校、地域、行政で事前に協議する。
- ・地域の地理的特性や歴史を十分に考慮した訓練を計画し、実施する。

自分の命を守る
児童生徒を
育てることが
市民のいのちを救う！

「必要な知識を身につけ、主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成するための方向性」

- ・幼稚園段階では、指示を受けて、落ち着いて素早く行動できるようにする。
- ・小学校段階では、低学年では、大人の指示に従うなど適切な行動ができるようにする。中学年では、自ら安全な行動ができるようにする。高学年では、自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りができるようにする。
- ・中学校段階では、災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。また、学校、地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さについて理解を深めるようにする。
- ・高等学校段階では、自らの安全の確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献しようとする態度等を身に付ける。また、社会における自らの役割を自覚し、地域の防災活動や災害時のボランティア活動にも積極的に参加できるようにする。

【「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」最終報告（平成 24 年 7 月）より一部抜粋】

本市における防災管理、防災教育の取組

教育委員会

- ①「子どもの命を守る安全教育推進会議」の開催
- ②児童生徒への防災教育（防災アドバイザーの派遣）
- ③教職員を対象にした防災管理研修（防災アドバイザーの派遣）
- ④学校防災マニュアル改善検討研修会の開催

小・中学校

- ①避難訓練・引渡し訓練の実施
- ②講演会や学習会の開催
- ③過去の災害や地域の実状を踏まえた防災教育
- ④他機関と連携した体験的な学習
- ⑤学区の状況を踏まえたマニュアルの作成と改善

災害発生時の学校の果たすべき役割

- 1 児童生徒の命を守る
- 2 児童生徒の安全を確保する
- 3 避難所開設、運営の初動体制を確立する
- 4 学校再開に向けて環境を整える